［高屋中］学校（ ２ ）年　**Ｒ５ふるさと教育・起業家教育の視点を取り入れた単元報告シート**

作成者名【安井　美由紀】

●●●●＝必ず記入　　○○○○＝計画に応じて該当するところを記入

めざす子ども像	①自ら考え自ら正しく判断し，創造性に富む生徒 ②自他を認め，よりよい人間関係を築くことのできる生徒 ③心身ともに健康で，これからの時代をたくましく生きていく生徒
学年・学期における探究課題	第２学年　１～２学期　調べ学習や体験学習を通して様々な生き方や目標に出逢い、働くことの意義を見出す。
単元名	『ワーク＆ライフ職場体験』（全25時間＝実施時期：６月～11月）
単元のねらい	井原の「もの」「ひと」「しごと」に出逢うことを通して、生徒一人ひとりの自らの生き方について考えることができる。

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
主な活動		職業講話や職業調べ、職場体験を通して、働くことの意義について考える。	井原市内の事業所で体験活動に取り組む。	体験活動で学んだことを整理・分析し、働くことの意義について考える。	体験活動をまとめ、プレゼン発表を行う。
仕掛け・工夫	**もの**				評価をもとに、スライドや発表原稿に工夫を重ねる。
	ひと		事業所の方々と交流して職業観や人生観を学ぶ。		班や学級で、互いのプレゼン発表を評価し合う。
	しごと（こと）		地域に還元される仕事を体験する。		
	その他				
引き出した姿	**いばら愛** （郷土愛と当事者性）		様々な魅力のある事業所が、井原市にあることを知った。		
	やり抜く力 （向上心と忍耐力）	体験学習を成功させようとする目標を設定した。また、体験学習から何かを学ぼうとする意欲を持つことができた。	体験を通して、自らの頑張りが様々なことに反映された達成感を感じた。	単に体験したことを整理するではなく、事業所の方々の働く姿から学んだことを振り返ることができた。	
	まき込む力 （発信力と協働性）				体験活動を通して学んだ、井原市内の事業所で働く人たちの魅力や働くことの意義を紹介した。
アウトプットの工夫		１年３学期に職業講話を行っている。	高等学校から講師を招いて、マナー講座を行った。		

◆　実際に関連付けた教科・領域、学校行事等

道徳「和樹の夏祭り（郷土の伝統と文化の尊重）」
「小さな工場の大きな仕事（社会への貢献）」
「おばあちゃんのくれた"おまじない”（働くということ）」

◆　実際に連携・接続・交流した他学年、他校（園）種、外部団体等

まとめ、表現において、１年生に体験から学んだこと、自分が考える働くことの意義を伝えた。

〈R5〉高屋中学校・２年　単元名『ワーク＆ライフ職場体験学習』の流れ（探究過程）と活動の実際　　担当【安井　美由紀】

◆単元のねらい「井原の「もの」「ひと」「しごと」に出逢うことを通して、生徒一人ひとりの自らの生き方について考えることができる。」

課題設定

ワーク＆ライフ職場体験の目的を確認する。 → 電話で、職場体験の受け入れのお礼を伝え、事前訪問のアポイントを取る。 → 職場体験の事前訪問を行い、活動内容を把握する。

情報収集

社会人としての一般的なマナーを学ぶ。 → 事業所の方々に質問する。 →

ワーク＆ライフ職場体験を行う。

整理・分析

体験活動を振り返り、学んだことを整理して、分析する。 → 事業所の方々へお礼状を書く。

まとめ・表現

プレゼン発表に向けて、個人でスライドと発表原稿を作成する。 → 班や学級で、プレゼン発表をして、互いに評価し合う。 →

学級の代表が１年生に向けてプレゼン発表をする。

◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

○単に体験するだけでなく、体験して学んだことから自分なりの働くことの意義を見出せた。
△事前事後の学習に時間がかかる。
☆仕事の内容によっては、生徒が希望しても受け入れが難しい業種がある。